

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業セミナー実施報告書

平成 21 年 12 月 26 日

独立行政法人日本学術振興会 殿

&lt;コーディネーター：立命館大学産業社会学部・荒木穂積&gt;

セミナー実施報告書を次のとおり作成しましたので提出します。

セ ミ ナ ー 名		日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 第 4 回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」(S-2)
開 催 期 間		平成 21 年 11 月 16 日 ~ 平成 21 年 11 月 19 日( 4 日間)
開 催 地		ベトナム社会主義共和国、ハノイ市、ハノイ師範大学
日本側責任者	氏 名	荒木穂積
	所属機関・職名	立命館大学産業社会学部・教授
開催者 (日本以外で開催の場合)	氏 名 ( 英 文 )	( ベトナム ) Nguyen Thi Hoang Yen ( Vietnam ) Nguyen Thi Hoang Yen ( 中国 ) 黄辛隠 ( China ) Huang Xin Yin
	所属機関・職名 ( 英 文 )	( ベトナム国 ) ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長兼障害児教育センター長 ( Vietnam ) Dean, Associate Professor, Hanoi University of Education, Department of Special Education ( 中国 ) 蘇州大学教育学院・教授 ( China ) Professor, Soochow University, School of Education

## セミナーの概要及び成果

### 【概要】

(セミナーの目的、本会経費により参加した参加者の役割や貢献についても示してください)  
2009年11月16日から19日間の4日間ハノイ師範大学(ベトナム・ハノイ市)を会場に第4回セミナーを実施した。ワークショップ2セッション、シンポジウム1セッション、施設見学・研究交流1セッションで構成された(プログラム参照)。

ワークショップでは、「発達障害児の親支援のための調査」の3ヵ国からの報告(中間報告)と南京調査(報告者: Ye Hao Sheng、葉浩生教授)の4つの報告を中心に討議した。また、次回セミナーまでの各国が取り組むべき課題を確認し合った。

シンポジウムでは、ベトナムの2施設(ホープ・センター、サオビエンセンター)で取り組まれている治療プログラム開発の実際についてIEP(個人別教育計画)の作成を中心に報告がなされた(第1日目)。また、事例研究報告(日本)によって発達支援の実際が紹介された(第2日目)。

施設見学・研究交流ではホープセンターをメイン会場に見学・交流を行った。

### 【成果】

「発達障害児の親支援のための調査」のデータ収集の目標は各国200名としていたが、ほぼ目標数のデータを得ることができた。ベトナムは150名のデータ数にとどまったが12月末までにさらに100名程度増やすことが表明された。今回は単純集計結果を中心に紹介し合ったが、さらに要因分析をすすめていく必要があることが確認された。分析方法を一致させる必要があることからセミナーでの討議の結果をとりまとめ、後日各国と引き続き検討することとなった。

「発達障害児の早期発見・早期対応プログラム開発」の実情に関してはベトナムでの取り組みが中心に報告された。特に今回焦点を「発達障害児の個別指導計画(IEP)の作成のための理論と実際」においたためにかみ合った議論を展開することができた。今回報告はなかったがホーチミン市からのメンバーも高い関心をもつ積極的な発言がなされた。また、日本からの事例研究(1事例、自閉症スペクトラム)は理論的によく整理されており、観察はビデオによる発表であったために具体的でわかりやすいものであった。次回はベトナム、中国からの報告が期待される。

次回は2010年6月に第5回セミナーを中国・上海で実施することが確認された。上海セミナーでは「発達障害児の親支援のための調査」(本報告)を中心に行う予定であるが、上海セミナーへのステップとして、2010年3月に日本発達心理学会全国大会でラウンドテーブルを行い、調査研究報告を学会でも行うこととなった。

以上、中間報告がなされ本報告への道筋が明瞭になったこと、治療教育プログラム開発に関してベトナムからの報告がなされ研究交流で進展がみられたこと(次年度は、中国を中心に研究交流をすすめるつもり)、事例研究に関しての共通認識が形成できたことなどが成果として確認された。今回も、3ヵ国から若手の研究者の積極的な参加、発表があり、国際共同研究の基盤形成がすすんできていることが確認できた。

## 参加者

「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 27人

(「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。< A: セミナー経費より負担。B: 共同研究・研究者交流経費より負担。C: 本事業経費からは負担しない。> )(形式任意)

## 参加者

(日本側)

1-1 立命館大学 荒木穂積 A (セミナー報告)

- 1-4 立命館大学 竹内謙彰 A (ワークショップ)
- 1-9 立命館大学 中原一精 C (セミナー報告)
- 1-11 立命館大学 荒井庸子 A (セミナー報告)
- 1-12 立命館大学 井上洋平 A (セミナー報告&ワークショップ)
- 1-15 立命館大学 張銳 (Zhang Rui) A (セミナー報告&ワークショップ)

(ベトナム側)

- 2-1 Hanoi University of Education Nguyen Thi Hoang Yen C (セミナー報告)
- 2-2 Hope Center No.1 Hanoi, Tran Thu Ha C (セミナー報告)
- 2-3 Hope Center No.1 Hanoi, Nguyen Quynh Son C (ワークショップ)
- 2-5 Hanoi University of Education HOANG, Thi Nho C (ワークショップ)
- 2-6 Ho Chi Minh University of Education NGUYEN THI Thanh Binh A (ワークショップ)
- 2-7 Hanoi University of Education Bui Thi Lam C (ワークショップ)
- 2-8 Hanoi University of Education Tran Thi Thiep C (ワークショップ)
- 2-9 Ho Chi Minh University of Education CAO Thi Xuan My A (ワークショップ)
- 2-10 Hanoi University of Education Do Nghiem Thanh Phuong C (ワークショップ)
- 2-11 Hanoi University of Education Tran Thi Minh Thanh C (ワークショップ)
- 2-13 Hanoi University of Education Dinh Ngyuen Trang Thu C (ワークショップ)
- 2-14 Training and Deelopment Centre for Special Education Nguyen Thanh Hoa C (ワークショップ)
- 2-15 Hanoi National University of Education Nguyen Nu Tam An C (ワークショップ)
- 2-17 Hanoi University of Education Ms. Dao Thi Bich Thuy C (ワークショップ)
- 2-18 Hanoi University of Education Ms. Nguyen Ha Ly C (ワークショップ)
- 2-19 Hanoi University of Education Ms. Ho Thi Net C (ワークショップ)
- 2-20 NAM PHUONG 早期干渉と統合教育センター Ms. Vu Thi Ngoc Anh A (ワークショップ)
- 2-21 Ho Chi Minh University of Education Ms. Kim Anh A (ワークショップ)

(中国側)

- 3-1 Soochow University, Huang Xin Yin (黄辛隱) A (ワークショップ)
- 3-9 Fudan University, LI Xiaoru, (李曉茹) A (ワークショップ)
- 3-10 Nanjing Normal University, Ye Hao Sheng (葉浩生) A (セミナー報告)

「参加研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 約 20 名 人  
(ア) (リスト不要)

日程及び課題 (セミナー関連資料があれば添付すること)

1. 2009 年第 4 回東アジアセミナースケジュール.doc (メール添付)
2. セミナー配布資料 (メール添付)  
日本語版のみ
3. セミナーの様子 (写真画像) (メール添付)
4. ワークショップの様子 (写真画像) (メール添付)